

日本の鳥の今を描こう ～ 全国鳥類繁殖分布調査へのご支援 お願いします ～

特定非営利活動法人 バードリサーチ

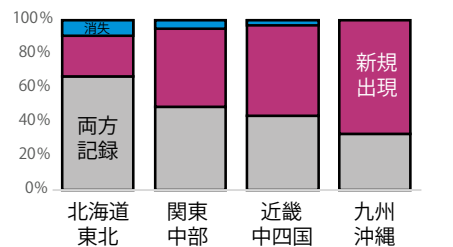
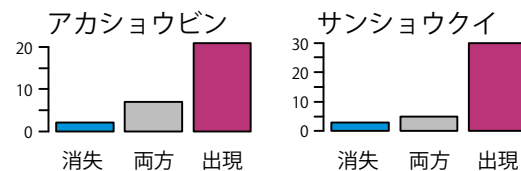
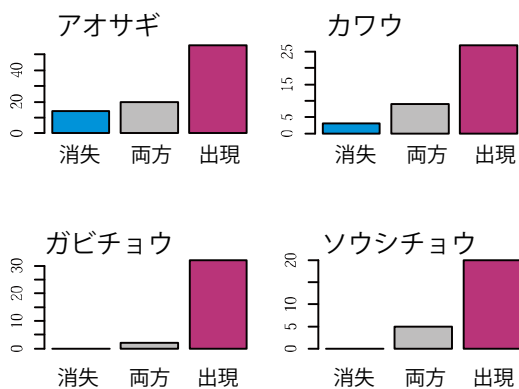
1970年代と1990年代に環境省により全国鳥類繁殖分布調査が行なわれました。この2回の調査で全国的な鳥の分布とその変化が明らかになり、日本の生物多様性の評価や、レッドリストの改訂に役立てられました。

鳥たちの状況は現在も変化し続けています。近年ではシカの増加に伴う藪に住む鳥の減少、外来鳥の分布の拡大、温暖化に伴う鳥の繁殖状況の変化などが心配されていますし、思ってもいない変化が起きているかもしれません。

以前の調査から、早くも20年が経とうとしています。鳥たちの今を知るために、3回目の全国調査をNGOと環境省そして大学の研究者などとの共同事業としてスタートさせました。これまでの環境省主導の調査とは異なり、助成金や寄付金などを資金源として、今年では全体の5分の1の調査を実施することができました。その結果、アオサギ、カワウなどの大型の魚食性の鳥やガビチョウやソウシチョウなどの外来鳥の分布拡大が続いていること、キビタキ、サンショウクイなどの夏鳥が復活傾向にあることなどが見えてきました。こうした原因や地域的な違いなどを明らかにするためにはさらなる調査が必要です。調査への参加とご支援なしに、それを成功させることはできません。ぜひこの調査への支援をお願いします。

夏鳥は復活傾向？

分布拡大の続く大型魚食性の鳥と外来鳥



キビタキは南の方で、より分布を拡大

今年得られた調査結果と1990年代の結果の比較から見えてきた鳥たちの分布の変化

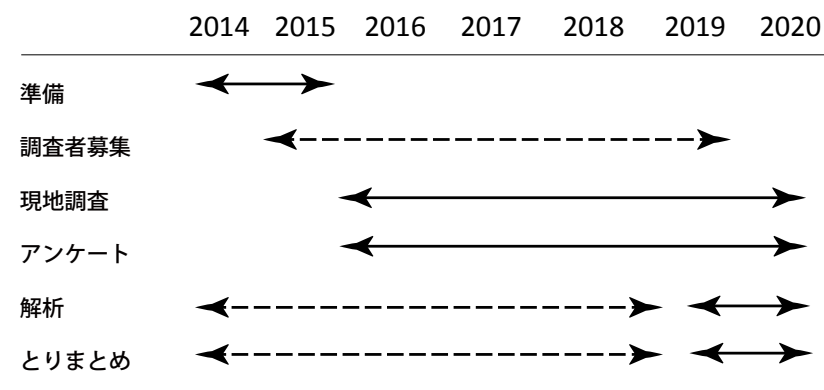
調査の体制と方法

バードリサーチ，日本野鳥の会，自然保護協会，日本鳥類標識協会，山階鳥類研究所，環境省生物多様性センターを中心とし，各地の団体等にも参加してもらい，2016年度から2020年度まで，5年間かけて現地調査およびアンケート調査を実施します。

現地調査は，全国 2,300 地点に設置された約 3 km のコースを歩き，そこに生息する鳥を記録します。対象種は日本で繁殖している鳥全種です。また現地調査では記録できなかった鳥もいるので，アンケート調査と文献調査も実施します。こうしたデータを手作業により入力集計すると事務局の負担が膨大になり，調査者への迅速な結果の還元が難しくなるので，調査者（あるいはボランティア）がデータを入力し，結果を速やかに分布図に反映されるようにしています。

この調査により得られるデータも非常に重要なものですが，様々な団体が参加して，調査を行なうことで，団体や個人の交流が生まれ，全国の市民参加型の調査が活発になることも目指しています。この調査から派生した，さまざまな調査が生まれ，発展していくのでは，と期待しています。

今後の調査のスケジュール



寄附金の使用予定

2017年度までには，今年の結果と合わせ 1000 か所以上の調査を終える予定でいます。

募金いただいた資金は，現地調査にかかわる費用として使わせていただきます。特に参加を希望している学生さんのなかには自動車を持っていない，調査地までの足がないという話を聞きました。20年後に実施する将来の調査のためにも，レンタカー代を負担するなどして，学生さんの参加も促進したいと思っています。大規模な調査ですので，必要経費だけでも大きなお金が必要です。助成金の獲得，独自資金の充当などこちらで努力しますが，ぜひともご支援よろしくお願いいいたします。